

思川だより



令和元年10月28日 第69号

このたびの台風や大雨で被害にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げます

工事の状況

現在、南摩ダムの建設現場では、付替県道・林道の新設工事12件、ダム本体の準備工事3件を実施しています。また、導水施設本体の準備工事として、引田地区において道路の拡幅工事を実施しています。

今回は、ダム本体の準備工事の一つである「上流仮締切遮水壁工事」を紹介します。

上流仮締切とは、川の流れを切り替えるための堤のことです。ダムは川の流れのある場所では建設工事ができないため、一時的に川の流れを迂回させることが必要です。南摩ダムの建設現場においては、上流仮締切で河川を堰き止め、写真①左側の仮排水路トンネルに川の流れを導き、山の中のトンネルを通してダムの下流側に河川をバイパスします。

本工事では、上流仮締切のうち、地下部分に設置する遮水壁の施工を行っています。施工においては、写真②の掘削機を用いて地中に穴を空け、そこに鋼製の板（鋼矢板）を一枚ずつ鉛直方向に圧入・連結しながら鉛直連続遮水壁を築造していきます。

ダム本体建設予定地では、ダム天端より高標高部の掘削工事も始まり、建設工事が本格化して参りました。地域の皆様におかれましては、何かとご迷惑をおかけいたしますが、環境対策や安全対策に万全を期して参りますので、引き続き、ご理解とご協力をお願い致します。

工事の状況は思川開発建設所HPからもご覧になれます。是非ご覧ください。

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/kouji/index.htm>



ダム本体の建設工事周辺状況



鉛直連続遮水壁の工事状況

上南摩小学校主催「みどりん学習」が開催されました

8月30日(金)に鹿沼市立上南摩小学校^{かみなんま}主催の森林環境学習「みどりん学習」が、当建設所が管理する環境保全地で開催されました。当日は、鹿沼自然観察会の橋田弘一(はしだ こういち)先生を講師としてお招きし、全校児童15名と引率の先生方が参加しました。

学習会に先立ち、機構職員からダム建設の目的や環境保全地の役割、観察できる動植物について説明を行いました。その後、児童の皆さんは林道や環境保全地周辺でトンボやカマキリ、バッタなどを虫取りあみで捕まえ、捕まえた虫を見せ合いながら観察し、分からないことを講師や職員に聞くなど熱心に取り組んでいました。

最後に、講師の橋田先生から、見つけた動植物の名前や種類、自然環境について解説をして頂きました。見た目の特徴を観察したり、匂いを嗅いだりと、五感で観察する方法を教えてもらい、機構職員も児童の皆さんと一緒に勉強することができました。



熱心に説明を聞く様子



池周辺で虫取りをする様子

上南摩の動植物 サシバ (タカ目タカ科)

和名:サシバ 学名: *Butastur indicus*

目名:タカ目

科名:タカ科

分布:渡来(夏期)・・・本州北部以南

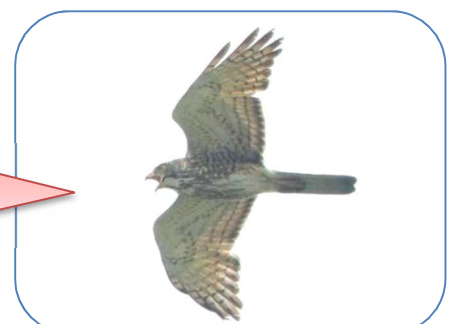
越冬・・・南西諸島

○環境省:絶滅危惧Ⅱ類

○栃木県:絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)



成鳥



幼鳥

カラスより小型のタカ科の鳥です。上面は暗褐色で、腹には茶褐色の横斑^{おうはん}があります。喉は白く、真ん中に黒い縦縞が1本あります。平野部から山地の農耕地や周辺の林で繁殖します。夏鳥として3月下旬から4月上旬に渡来し、周辺の林に営巣します。餌はカエル類、ヘビ類、トカゲ類、ネズミ類、昆虫類です。栃木県内では、東部の芳賀郡^{はが}から大田原市^{おおたわら}にかけての里山に多く見られましたが、近年減少傾向にあります。特に宇都宮市^{うつのみや}などの市街地に近い地域では生息数の減少が顕著です。

写真は事業地内で撮影したものです。左が成鳥、右が幼鳥です。成長とともに羽の色が褐色に変化していきます。

(出典:レッドデータブックとちぎ2018改訂版)

上下流交流事業「水のふるさと見学ツアー」

8月25日(日)、今年で5回目となる上下流交流事業「水のふるさと見学ツアー」が開催されました。今年^{とちぎけんかぬまし}は栃木県鹿沼市及び^{いばらきけんこがし}茨城県古河市が主催で、古河市在住の親子15組30名が鹿沼市を訪れました。

当ツアーには、南摩ダム建設予定地のほか、普段見ることのできない^{きょうよう}供用前のトンネルの内部や、南摩川源流部の見学が含まれており、当日は当建設所からも若手スタッフを中心に参加し、現地の案内等を行いました。また、参加者は、上南摩町自治会協力のもと行われた「そば打ち」や、木のふるさと伝統工芸館において伝統工芸品である「^{かぬまくみこ}鹿沼組子づくり」を体験しました。参加した子供たちにとっては、夏休み最後の良い思い出づくりができたのではないのでしょうか。



親子で楽しく「そば打ち」体験



ダムサイト展望台にて記念の写真を撮る

再発見！鹿沼の魅力（第13回）

かわかみすみおびじゅつかん
川上澄生美術館

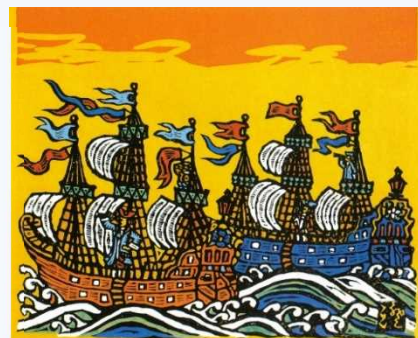
美術館には、木版画の詩人といわれた川上澄生(1895から1972)の作品約2,800点が所蔵されています。澄生は、宇都宮市で高校教師をしながら版画制作を行い、退職後は本格的に版画制作に専念したそうです。作品の中には懐かしい南蛮の絵があり、とてもかわいらしいです。美術館は趣のある洋館で、澄生の教え子で鹿沼市出身の長谷川勝三郎(1912から2001)が所有していた作品の提供により、1992年、黒川のほとりに鹿沼市が開館しました。

美術館では年4回の企画展が開催され、9月には版木で白黒に刷りだしたものに手で彩色した絵やガラスの裏面から描くガラス絵など多数の作品が展示されていました。作品の中には戦時中に澄生が豪華な絵本として販売しようとしたものの、贅沢品だとして特別高等警察から販売許可が下りなかった作品も展示されていました。戦時中の^{せいひつ}緊迫した社会情勢が垣間見えてくるようです。10月からは、「^{せいみやなおみ}静謐の画家 清宮賀文 すみわたる詩情の世界」が県内初開催されます。また、1階の無料ギャラリーには、新鋭の作家の作品も展示されていますので併せて見学してみたいはいかがでしょうか。

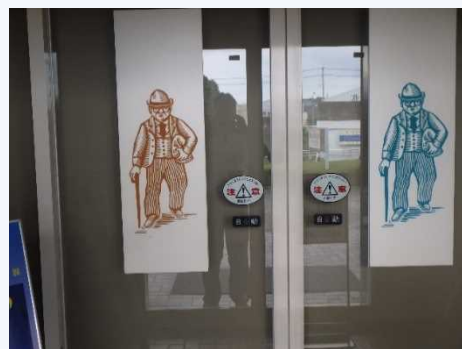
川上澄生美術館 HP <https://kawakamiumio-bijutsukan.jp/>



川上澄生「南蛮人」
鹿沼市立川上澄生
美術館蔵



川上澄生「南蛮船図B」
鹿沼市立川上澄生美術館蔵



サントリーロイヤルのコマーシャルで使用された「へっぽこ先生」が出迎えてくれる。

思川散策

＜思わず行きたくなる思川＞を発見する「思川散策」
小山市寒川の胸形神社をピックアップ

思川の由来となった伝説の一つ 胸形神社



胸形神社の境内

前号に続き、思川の名前の由来に関係していると言われている名所の紹介です。今回は、おやましむかわ むなかた小山市寒川の胸形神社を紹介します。この神社では、神様として田心姫命(たごりひめのみこと)という水に縁のある女神が祀られています。昔、思川流域に水田が^{たた}発達するようになったとき、人々は川の恵みの大きさを讃え、田心姫の名前にある「田」「心」の二文字を「思」という一字につめて「思川」と呼ぶようになったと伝えられています。

以前は「栃木名木百選」の一つ「えのき」の大木が見下ろしていましたが、現在は枯れてしまいました。現在は枯れてしまいましたが、数々の風水害を見守った力強い木だったそうです。力強く壮大とはダムと同じだと考えながら凜とした雰囲気を感じました。是非足を運んでみてください。

栃木県観光物産協会公式サイトHP 胸形神社 <https://www.tochigiji.or.jp/spot/6598/>

下野かるたより

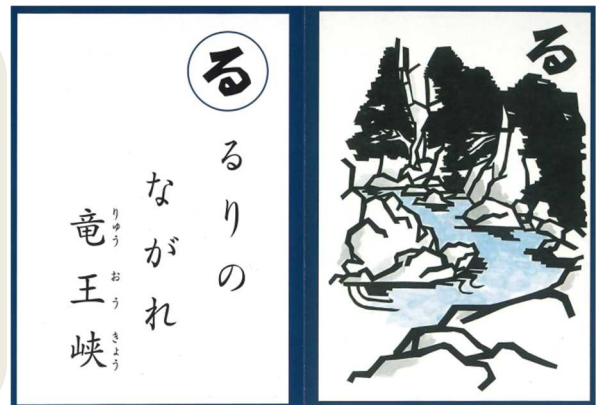
栃木県内の地元かるたを用いて、

様々な歴史・文物を紹介するこのコーナー。

引き続き、^{しもつけ}『下野かるた』（栃木県文化協会発行）からの紹介です。

く るりのながれ竜王峡 >

より一層肌寒くなり、紅葉も本番を迎えようとしています。今号では、そんな秋にぴったりのかるたをご紹介します。竜王峡は、鬼怒川の浸食によってできた溪谷です。遊歩道を歩きながら、るり色の清流や様々な奇石、紅葉を楽しむことができます。また、歩いた後は上流の川治温泉、下流の鬼怒川温泉で、疲れを癒やしながら体をぽかぽか温められます。運動の秋、行楽の秋にぴったりの竜王峡におでかけしてみたいはいかがでしょうか。



編集後記

このたびの台風や大雨で被害にあわれた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

台風19号の影響で、当事務所の近くを流れる河川が氾濫し、当事務所を含む周辺地域は浸水被害を受けました。当事務所一階は床上浸水したため、現在復旧作業を行っております。

関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、今後とも思川開発事業へのご理解とご協力をお願いいたします。

お知らせ

▼思川開発建設所では、随時、現場をご案内いたします！詳しくはお電話またはHPをご覧ください！

▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています！お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい！

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所
〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2
Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211
<http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/index.htm>



思川開発

検索